

論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称	博 士 ( 農 学 )	氏名	申 惠 珍
学位授与の要件	学位規則第4条第①・2項該当		
<p>論 文 題 目</p> <p>韓国における農産物流通の変化に伴う卸売市場流通構造の構築に関する研究          ー韓国卸売市場実態分析を中心にー</p> <p>A study on the establishment of the wholesale market distribution system according to the changes in the distribution of agricultural products in Korea :Focused on the analysis of the current situation of the Korean wholesale market</p>			
<p>論文審査担当者</p> <p>主 査 教 授 細野 賢治</p> <p>審査委員 准教授 長命 洋佑</p> <p>審査委員 教 授 島田 昌之</p> <p>審査委員 教 授 三本木 至宏</p> <p>審査委員 名誉教授 王 成宇 (天安大学校)</p>			
<p>〔論文審査の要旨〕</p> <p>本論文は、韓国における近年の流通構造の変化に着目し、その与件として食品流通環境の変化の状況を把握しつつ、卸売市場流通政策の変遷とそれに伴う卸売市場流通の構造変化について、国内の代表的な中央卸売市場である可楽市場と典型的な地方卸売市場である天安市場での取組に関する実態調査をもとに明らかにしたものである。</p> <p>本論文は6章構成である。</p> <p>第1章では、本論文の問題背景、問題意識を確認した後、韓国卸売市場流通の構造変化にかかる既存研究の到達点と補完すべき点を整理した後、本研究の目的と課題・方法を提示した。</p> <p>第2章では、韓国の青果物流通環境における変化の状況とその要因について、需要構造及び供給構造の両面から把握した。</p> <p>第3章では、韓国の青果物流通の中核的存在である卸売市場流通に注目し、卸売市場の設置状況と展開過程、卸売市場政策の変遷とその要因、卸売市場設置の根拠法である農安法の近年における改定状況と流通環境の変化に伴う卸売市場振興政策について把握した。</p> <p>第4章では、韓国最大の中央卸売市場であるソウル可楽市場における近年の流通環境変化を受けた運営改革の一環として、オンライン競売という新たな取引方法の導入状況と課題について、流通従事者（卸売市場法人および仲買人）に対するアンケート調査および深層面接調査の分析により明らかにした。</p> <p>第5章では、地方卸売市場の衰退から脱却すべく政府からモデル市場として位置づけられた天安市場における定価・随意売買の導入状況と課題について、流通従事者（卸売市場法人および仲買人）に対するアンケート調査および深層面接調査の分析により明らかにした。</p> <p>第6章では、以上を総括し、近年の韓国における食品流通環境変化に伴う卸売市場流通構造と政策についての展開方向を考察した。</p>			

これらを要約すると、次のとおりである。

近年の韓国における食品流通構造の変化は、日本のそれと同様に食の多様化や外部化、簡便化が進行しており、スーパー等大型小売資本の台頭などに伴い、卸売市場経由率の低下や中央卸売市場と地方卸売市場との格差拡大、などが進行している。このようななか、卸売市場政策の中核である農安法が改定されたが、その柱は①定価・随意売買の導入、②商物分離型取引の容認、であった。これらにより、可楽市場ではオンライン競売、天安市場ではサイバー市場など、ICT を活用した商物分離型取引による取引の活性化を試みている。しかしながら、韓国の農産物取引は信用の問題から現物取引が現状でも重要視されており、新たな取引形態を推進するためには、商物分離型取引の信用度を向上させる必要がある。このようななか、天安市場で実施されている「All Fresh」は、青果物の全量を定価・随意売買によって仲買人が仕入れた地域農産物について、卸売市場法人から「All Fresh」の認定を受けた小売店が全量を仲買人から購入して販売するという PB（プライベート・ブランド）である。この取組は、これまで韓国では歴史的に対立関係にあった卸売市場法人と仲買人との協働によって進められており、韓国における卸売市場活性化の方策として大いに期待できるものであると指摘した。

以上、審査の結果、本論文は統合生命科学研究科学位論文評価基準を満たし、著者は博士（農学）の学位を授与される十分な資格があるものと認められる。